

様式2（計画用）

「越前市食と農の創造ビジョン（案）」に関するパブリック・コメント結果

案件名	越前市食と農の創造ビジョン（案）について							
実施期間	令和2年1月16日（木）から令和2年2月4日（火）まで							
趣旨	<p>「越前市食と農の創造条例」に基づき、農業・農村の活性化を図るための基本的な考え方を示した「越前市食と農の創造ビジョン」は、令和元年度末に計画期間満了を迎えます。</p> <p>現在、私たちの食と農を取り巻く状況は、食料自給率の横ばい傾向での推移や食の安全・安心の問題、高齢化や後継者不足による農業者の減少、農地の荒廃などによる自然環境への悪影響など、極めて厳しい状況にあります。</p> <p>このような背景の中、市では、食育や地産地消の推進、環境調和型農業の推進やコウノトリをシンボルとした農産物のブランド化、里地里山の保全再生などに取組んできました。</p> <p>今後も引き続き、私たちの食と農の現状を見つめ、その大切さを理解するとともに、農業・農村の活性化と自然環境との調和を図るため、同じく計画期間満了を迎え、食と農の創造ビジョンの内容と共通部分が多くある「コウノトリが舞う里づくり戦略」と統合し、改定します。</p>							
意見提出者数 （件数）	3人（3件）							
		~20代	30代	40代	50代	60代~	未記入	合計
	男性	0	0	0	0	0	2	2
	女性	0	0	1	0	0	0	1
	未記入	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	1	0	0	2	3
意見に対する回答	以下のとおり							

No	年齢・性別	該当する箇所	意見の要旨	越前市の回答
1	不明 男性	全般	農業を取り巻く環境の退化に歯止めがかからない状況下、営農の継続が困難になってきている。松森から行松にかけてのJR沿線の圃場は、面積は小さく不整形、アクセ	基本構想第2章の2において、本市では、認定農業者や農業法人のような大規模農業から、集落営農組織のような集团的地域農業や中小規模の兼業農家、家族農業などの小規模

様式2 (計画用)

			<p>スが容易でないなど、不利な条件ばかりである。農振地区でないため、整備を進めることもできない。</p> <p>後継者がいない現状を打破すべく、農業生産組合を立ち上げて数年になるが、収入が増えることはなく、今年度は赤字決算である。越前市の中でも三反、五反という長方形の圃場の営農の2～3倍の労力を要し、収益は6、7割ということを強いられた特異な地域での営農に手を差し伸べていただく方策をお考えいただきたい。</p> <p>前述のJR沿線では開発行為もないものと思うが、私どもの組合活動が、治水や環境美化の面で多少なりとも役立っているのではと思う。</p>	<p>農家、さらには生きがい農業まで多様な農業の共存を目指し、全ての農業者が各々の経営体規模に応じた農業を営むなかで農業生産活動に見合った所得が得られるよう、持続可能な農業を目指しています。</p> <p>具体的には、経営意欲のある担い手の所得向上や経営安定を図るため、付加価値の高い農産物の生産や、生産効率の高い農業を推進していくことから、農地の集積、集約化や水田フル活用を進めるほか、環境調和型農業の推進、水稻と園芸を組み合わせた水田園芸複合経営を行うための機械や施設整備の支援を行ってまいります。更に、各々の経営規模や営農活動を行う地域の実情などに応じて、スマート農業の導入による農作業の効率化や労力削減が可能となるよう、積極的に支援してまいります。</p> <p>また、基本構想第2章の3において、農地や里地・里山は、水源涵養や景観保全などの多面的機能があり、農業生産によって維持される市民共通の社会資本であることから、地域で営まれる農業や農村が果</p>
--	--	--	--	--

様式2 (計画用)

				たしている役割や重要性を市民に広く啓発してまいります。
2	不明 男性	基本計画 第3章	<p>これまで長年、地域と行政などが一体となって取り組んできたコウノトリが舞う里づくりは、継続した取組みが必要だと思えます。</p> <p>今後も「生きものと共生する越前市」に向けて、コウノトリをシンボルとしたさまざまな取組みを進めていくという観点から、第3章のタイトルである「農を基盤とした豊かな自然環境と人と人が絆で結ばれた地域社会の実現」のサブタイトルとして、「コウノトリが舞う里づくり」など、コウノトリをシンボルとした取組みであることが一目で分かるようなタイトルを追加するというのはいかがでしょうか。</p>	<p>食と農の創造ビジョンは、今回の改定時に、目指す方向性や施策に共通点の多いコウノトリが舞う里づくり戦略との統合を図ることとしています。これまで地域と行政などが連携して取り組んできたコウノトリが舞う里づくりは、食と農の創造ビジョンに統合された後も、新しい主体との連携や継続した取組みを進めてまいります。</p> <p>ご意見の第3章のタイトルの副題については、追加する方向で検討し、コウノトリをシンボルとした生物多様性や自然再生保全の取組みをはじめとする「コウノトリが舞う里づくり」を今後、より一層推進してまいります。</p>
3	40代 女性	全般	<p>農業・農村の活性化と自然環境の調和を図るうえで、野生鳥獣による農作物被害は多大だと考えます。越前市でも、「市鳥獣被害防止計画」を実施していますが、狩猟者の高齢化、免許所有者数の減少が懸念されています。農地の荒廃も、鳥獣</p>	<p>本ビジョンの目的である農業・農村の活性化や自然環境との調和を図るため、農地や農村景観の保全、鳥獣害対策など生産基盤の整備及び維持管理は、非常に重要であると認識しております。</p> <p>ご意見のうち、1の狩猟者の育成や若者たちに対</p>

様式2 (計画用)

			<p>被害の原因の一つだと考えます。</p> <p>以上のことから、</p> <p>1 狩猟者の育成とさらなる教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者たちへのPR (保育園、小中学校等での講演等) ・ジビエ料理の普及 (家庭料理、屋台料理、ご当地料理等の提案) <p>2 荒れた農地の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリ米の酒米づくり (新しい地酒開発) ・荒れた土地に牛等を放牧 <p>コウノトリ米のような無農薬での生産は、時間や手間がかかることから、コウノトリ米に合う料理の開発もよいと思う。</p>	<p>するPR等、さらなる教育については、第3章の2基本的な施策の3及び4において、自然環境や農産物の生産など様々な学習資源等を積極的に活用した学習を支援するとともに、身近な川や山、田んぼでの自然や生きものに触れる機会を創出し、自然体験や農業体験等の自然体験学習を推進してまいります。</p> <p>また、鳥獣害対策として捕獲だけでなく、捕獲鳥獣のジビエ利用拡大については、まるごと食の感謝祭において、県や地産地消推進の店と連携してジビエ料理のPR等を行っておりますが、今後さらに普及拡大に努めてまいります。</p> <p>ご意見の2 荒れた農地の開拓について、コウノトリ米の酒米づくりについては、第2章の1 現状と課題の7において、現在、コウノトリ呼び戻す農法で栽培された五百万石という酒米で製造した純米吟醸酒「かたかた」が平成26年に商品化され、現在も販売されています。</p> <p>また、荒廃した農地での牛等の放牧については、昨年度、県の新事業「中山間営農継続支援事業」におい</p>
--	--	--	---	--

様式2（計画用）

			<p>て、傾斜が急な中山間農地の草刈作業の省力化を目的としたヤギによる除草の導入支援を行っておりますが、貸出個体数が限られていることから、現時点において、本市では具体的な事業活用について見込めていない状況です。今後、牛を含めた放牧について調査・研究してまいります。</p> <p>コウノトリ呼び戻す農法米を活用した料理メニューや加工品等の開発については、基本計画第2章の2 基本的な施策の3（5）において、コウノトリをシンボルとした農産物や加工品のブランド化を推進し、農産物の付加価値及び販売力を高めるとともに、基本計画第1章における食育や地産地消の推進において、地産地消推進の店との連携によるメニューの開発や各地区における食育や地産地消活動を通じた取組みを支援してまいります。</p>
--	--	--	---